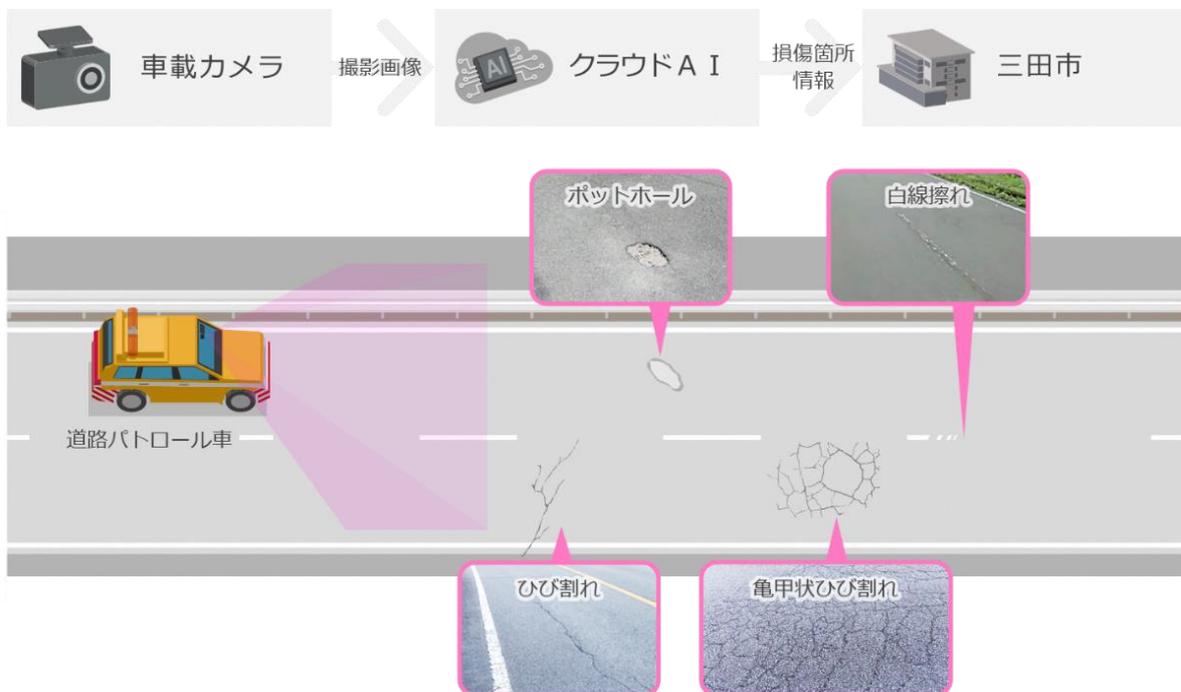


三田市と三菱電機株式会社が 道路マネジメントシステム開発に係る共同研究協定を締結しました

三田市は、「自動車走行データ」によるデータ利活用型スマートシティの推進を、民間企業や団体等と連携しながら取り組んでいます。本日（令和 4 年 9 月 21 日）に、三菱電機株式会社（東京都千代田区、以下「三菱電機」という。）と共同研究協定を締結し、「車載カメラを活用した道路マネジメントシステム開発」に着手します。

なお、本件は三田市内に拠点を置く三菱電機株式会社三田製作所（兵庫県三田市）と共に取り組みます。



車載カメラを活用した道路維持修繕業務のイメージ図

1 背景・課題

本市は、令和 4 年 4 月にさんだ里山スマートシティ構想を策定し、デジタル技術の活用やデータ利活用により様々な課題を解決することで、「市民一人ひとりが幸せを実感しながら住み続けられるまち三田」を目指しています。

三田市では総延長が約 700 km に及ぶ市道を、道路パトロール車の運行・不具合通報システムなどによる市民からの通報や、重要路線においては 5 年に一度の路面性状調査を実施するなどして損傷状況を把握し、必要に応じて応急修繕や計画的な修繕工事を実施しております。

このように長距離の管理延長を目視主体で日常管理していることから、市道の画一的な維持管理の実施が困難な現状です。このため、共同研究の成果が計画的な予防対策に繋がることを期待しています。

2 共同研究のねらい

修繕を要する損傷をAIが自動検知する機能を構築し、電子地図上への展開による見える化や、時系列化により市内各所の損傷状況の変化、劣化速度の分析などを行います。

これによって、以下のような効果が期待できます。

- ・ 損傷状況把握の精度が高まる。
- ・ 市内各所における損傷の特徴を明確にできる。
- ・ 損傷の特徴に応じた修繕工法の採用で、将来の修繕コストが抑制できる。

これらの効果の実現性や従来業務とのコスト比較を評価し、システム実用化の検証を行っていきます。

【各者の役割】

三田市：システム構築に必要なノウハウの提供、道路状況データ収集のための走行実験、システムの評価、運用面での課題抽出

三菱電機：システム構築、収集データの整理・分析、研究報告書の作成

3 スケジュール

令和4年9月 共同研究協定の締結（9月21日）

協議（方針や仕様の確定）、市よりノウハウの提供、システム開発

10月 データ収集のための走行実験開始

11月～収集データの評価、課題抽出、システムの改善

令和5年2月 路面性状調査との比較による検出精度の検証

9月 研究報告書の提出